きべ　かずき

木部一樹氏の横顔

木部氏は自然派の画家である。八ヶ岳で,八甲田で,白神山地で,沖縄で,森の中に入って体感して全身で森の気を感じて絵筆を執るという。したがってかどうかは知らないが，東京で打ち合わせのときは,すでに酒のにおいが微かにする。月刊「測量」清水編集委員長いわく「芸術家はそれでいいのです」。この一言に，小サラリーマンの当方はなんとなく納得した次第。

現在,個展や新聞・雑誌にエッセイを書くなど忙しい。今年の夏は東奥日報で連載コラムを拝見した。

ここ5，6年の氏の活躍は目覚ましいもので，40代後半に入り脂が乗り切ってきたという感じである。　1999年に芥川賞作家　加藤幸子の短編集『ジーンとともに』(新潮社）の装画を書く。　この年，京王電鉄記念キップ69種類の鳥の図柄を担当する。

個展のほうは1987年に，銀座ギャラリーTで個展をやったのを手始めに，　2000年，　2001年には東京渋谷の東京東横店美術サロンにて，2004年には銀座煉瓦画廊にて開き，注目を集める。

2004年には，図柄を担当した企業カレンダーが全国カレンダー展にて日本商工会議所会頭賞を受賞した。

しかし，氏が一番楽しんでいるようにみえるのは,生まれ故郷の青森で毎年春や夏に開く個展＆子供たち相手の絵画教室のようだ。そこは津軽海峡に臨む三厩美術館である。季節の風を思いっきり吸い込める大きな空と森と自然があるのだろう。

（紹介；浦郷武夫）

●著書/画文集「鳥の画帳」(東京新聞出版局）

●共著/日本の野鳥紀行（小学館),図鑑NEO（小学館）　その他

木部氏作品

●月刊「測量」2007年1月～12月表紙　「測量に関するモニュメント、場所」シリーズ

●月刊「測量」2005年1月～12月表紙　「測量に関する偉人」シリーズ